

台灣的大學在遠距日語教學的現況與課題 —透過問卷與作文資料之分析—

本間美穗

銘傳大學應用日語學系 助理教授

摘要

本研究主要探討台灣的大學遠距日語教學的現況、課題以及可能性。本研究進行了以下兩項分析：(1)針對主修日語大學生所做的遠距日語教學相關問卷調查結果的分析、(2)主修日語大學生所寫的遠距日語教學相關作文的分析。在這兩項的分析探討後所得到的結論如下。

1. 多半學生都遇到過網路及設備相關的問題，導致線上學習受阻，也有部分學生在沒有適宜的學習場所的情況下參加遠距教學。
2. 多半學生都認為遠距教學的缺點比優點多，在現階段遠距教學還無法取代實體教學。
3. 部分學生希望在疫情結束後，繼續讓實體教學與遠距教學並存。
4. 今後遠距教學成功與發展的關鍵，就是「改善網路通訊環境」、「提升教師網路素養及調整授課方式」、「提升學生自我管理 ability」。

關鍵詞：大學日語教育、遠距教學、網路通訊環境、網路素養、自我管理 ability

受理日期:2022 年 08 月 22 日

通過日期:2022 年 10 月 25 日

DOI: 10.29758/TWRYJYSB.202212_(39).0004

**The Current State and Prospects of Online Japanese Classes
in Taiwan's Universities:
Analyses of Data from Questionnaires and Compositions**

Homma, Miho

Assistant Professor, Dept. of Applied Japanese, Ming Chuan Univ.

Abstract

This paper aims to examine the current state, the prospects, and the potentiality of online Japanese education in Taiwan's universities. Two sets of data, including questionnaires and compositions on online classes both completed by the students majoring in Japanese, are analyzed. Conclusions are drawn as follows.

1. Most students ever encountered internet or device related issues, and some joined online classes without an appropriate environment.
2. Most students believed the drawbacks of online classes outweigh its advantages, expressing the irreplaceability of in-person classes.
3. Some students expressed their wishes that online and in-person modes would coexist after the pandemic.
4. Improvement of online communication environment, educators' digital literacy and adjustable teaching methods, and enhancement of students' self-management skills are keys to the success and future development of online education.

Keywords : Japanese education in college, Online classes,
Online communication environment,
Digital literacy, Self-management skills

台湾の大学におけるオンライン日本語授業の現状と課題 —アンケート調査資料と作文資料の分析から—

本間美穂

銘伝大学応用日本語学科 助理教授

要旨

本研究の目的は、台湾の大学におけるオンライン日本語授業の現状・課題・可能性等を明らかにすることである。日本語専攻大学生に行ったオンライン授業に関するアンケート調査結果及び日本語専攻大学生が書いたオンライン授業に関する作文の2つのデータを分析した結果は、次の通りである。

1. 学生の多くがネット回線やデバイスに関するトラブルに遭遇し、受講に支障が生じた経験を持っていた。一部の学生については適切な受講場所もない中でオンライン授業を受けていた。
2. 学生の多くはオンライン授業のメリットよりデメリットを強く実感しており、現状ではオンライン授業が対面授業に取って代わることはできないと考えている。
3. 一部の学生はコロナ収束後の平時もオンライン授業が継続されることを希望している。
4. 今後オンライン教育が成功・発展するには、通信環境の整備、教師のデジタルリテラシーの向上や授業方法の調整、学生の自己管理能力の向上が欠かせない。

キーワード：大学日本語教育、オンライン授業、通信環境、
デジタルリテラシー、自己管理能力

台湾の大学におけるオンライン日本語授業の現状と課題 —アンケート調査資料と作文資料の分析から—

本間美穂

銘伝大学応用日本語学科 助理教授

1. はじめに

台湾の多くの大学は、教育部の方針に基づくコロナ禍対応としてこれまで四度オンライン授業を実施している。筆者の所属大学を例にとると、一度目は2019年度後期の全期間（2020年2月下旬～6月下旬）で、主に入国規制により台湾に戻れなくなった留学生に配慮し、学生が同じ授業をオンラインでも対面でも受講できるハイフレックス型授業を導入している。二度目は2020年度後期の学期末（2021年5月中旬～6月下旬）で、感染拡大の懸念が生じたことから、急きょ対面授業からフルオンライン授業に移行している。三度目は2021年度前期の初め（2021年9月下旬～10月中旬）で、感染力の強いデルタ株の拡大防止策として数日間のフルオンライン授業を経て、学生が学籍番号の奇数・偶数で分かれ、一週間ごとにオンラインと対面で受講する分散型授業を導入している。四度目は2021年度後期の後半（2022年5月初旬～6月下旬）で、オミクロン株の感染急拡大を受け、再び全面オンライン授業を実施することになった。

回を重ねるにつれてオンライン授業のメリットとデメリット或いは可能性と課題が見えてきたが、現状ではコロナ収束が見通せず、感染が再拡大すればまたオンライン授業に切り替わるかもしれないこと、今後様々な学問分野においてオンライン教育の発展が見込まれること¹、そして、オンライン教育が急速な少子化に直面する大学

¹ 東京大学大学院工学系研究科・工学部はすでにインターネット上の仮想空間「メタバース」で中高生や大学生、社会人に工学分野の教育プログラムを提供するプラットフォーム「メタバース工学部」を設立している。
東京大学大学院工学系研究科・工学部「メタバース工学部設立のお知らせ」
<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/press/pr2022-07-21-001>（最終閲覧日 2022.08.15）

の救世主となるかもしれないことなどから、ここで学ぶ側の立場からオンライン授業を捉えてみることは意義があると思われる。

そこで、本稿では筆者の所属大学応用日本語学科の学生に行ったオンライン授業に関するアンケート調査結果と学生が書いたオンライン授業に関する作文の2つのデータを分析し、オンライン日本語授業の現状・課題・可能性等を明らかにしたい。

2. オンライン授業の形態

オンライン授業とは、パソコンやタブレット、スマホなどを使い、インターネットを介して実施される遠隔授業を指す。下記表1に、オンライン授業について解説した日本のWebサイト²を参考に、その主な形態を整理した。表1に示したように、オンライン授業は大きく(1)教師が用意した教材に学生が個別にアクセスして学習する「オンデマンド型」、(2)教師と学生全員がオンラインでリアルタイムにやり取りして授業を行う「同時双方向型」の2つに分類できる。

表1 オンライン授業の主な形態

分類	授業方法	学生にとっての主な メリット・デメリット
オンデマンド型 (非同期型)	YouTubeなどの動画共有サイトやGoogle Classroom、Moodleなどの学習管理システム ³ を活用する。教師が予め授業教材(動画や資料等)	【メリット】 自分のペースで好きな時間に学習できる。分からない部分が繰り返し確認でき、理解度が高まる。通信環境による

² 参考にしたのは、主に次の4つのWebサイトである。
京都大学高等教育研究開発推進センター「オンライン授業ってどんなもの？」
<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/patterns.php>(最終閲覧日2022.08.15)

東京大学「オンライン授業を始めるために」
https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/faculty_members/(最終閲覧日2022.08.15)
デジタル・ナレッジ「オンライン授業とは?メリット・注意点・成功させるコツ」

<https://www.digital-knowledge.co.jp/online-lesson/>(最終閲覧日2022.08.15)
デジタルラーニング研究室「オンライン教育の形式って?「オンデマンド型」「リアルタイム型」それぞれの特色について」
<https://lab.castalia.co.jp/2020/10/online-education-ondemand-realtime.html>(最終閲覧日2022.08.15)

³ 学習管理システム(LMS: Learning Management System)とは、インターネットを通じて授業・学習支援の環境を提供するプラットフォームを指し、主なものにGoogle Classroom、Moodleなどがある。

	をアップロードし、課題を提示する。学生は教材をダウンロードして学習を進め、課題を提出する。	トラブルが少ない。 【デメリット】 教師から十分な指導が与えられなければ、モチベーションが下がりやすい。
同時双方向型 (同期型)	Zoom、TeamsなどのWeb会議システム ⁴ を活用し、教師と学生がリアルタイムに双方向のやり取りをしながら授業を行う。	【メリット】 従来の授業に近い形で学習でき、教師・学生間、学生間でリアルタイムに質問や討論、意見交換等が行える。 【デメリット】 通信環境によるトラブルが生じやすい。

また、台湾におけるコロナ禍での授業形態は下記表2に示したように、大きく「対面型」「フルオンライン型」「ハイブリッド型」の3つに分類できる。このうち対面授業とオンライン授業を組み合わせた「ハイブリット型」は、更に「ハイフレックス型」「ブレンド型」「分散型」の3つに分類できる⁵。

表2 台湾におけるコロナ禍での授業形態

分類		授業方法
対面型		従来の授業の形で、教室での対面で行う。
フルオンライン型		全面的にオンデマンド型或いは同時双方向型のオンライン授業を行う。
ハイブリッド型	ハイフレックス型	同じ内容の授業を対面とオンラインで同時に行う。学生は自身の状況に応じて対面授業と同時双方向型のオンライン授業のどちらで受けるかを選択できる。
	ブレンド型	各回の授業の目的に合わせ、対面が望ましい回は対面、それ以外はオンラインで実施するなど、対面とオンラインを組み合わせる授業を行う。
	分散型	学生を学籍番号の奇数・偶数などで分け、半分の学生は対面、残りの学生はオンラインで授業を受け、次の回では学生を入れ替えるという方法で授業を行う。

筆者の所属大学応用日本語学科の場合、過去四度のオンライン授業は全て同時双方向型を採用し、一度目はハイフレックス型、二度目はフルオンライン型、三度目は主に分散型、四度目は再びフルオ

⁴ Web会議システム (Web Conference System) とは、インターネットを通じて遠隔地同士で映像・音声のやり取りや資料の共有などが行えるシステムを指し、主なものに Zoom、Microsoft Teams、Skype などがある。

⁵ コロナ禍での授業形態の分類は、主に次の2つのWebサイトを参考にした。京都大学高等教育研究開発推進センター「ハイブリッド型授業とは」
<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/hybrid.php> (最終閲覧日 2022.08.15)

東京大学「オンライン授業を始めるために」

https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/faculty_members/ (最終閲覧日 2022.08.15)

ンライン型で実施している。

3. 先行研究

日本では 2020 年 4 月以降、多くの教育機関がコロナ禍対応として長期間のオンライン授業を実施しており、日本語教育分野においても様々な切り口から数多くの研究がなされてきた。一方、厳格な防疫対策が功を奏してきた台湾では、2019 年度後期に台湾の大学に戻れなくなった留学生に対する救済措置として全学期を通じてハイフレックス型授業が実施されたほか、長期に渡り継続してオンライン授業が行われたことがなく、日本語教育分野における関連研究の数が限られている。ここでは、オンライン日本語教育に関する日台の研究を中心に概観する。

3.1 日本におけるオンライン日本語教育に関する研究

河内他（2021）は、オンライン教育のメリットと課題を明らかにするため、所属大学の日本語教育プログラムの教師と学習者にアンケート調査を実施した。そして、教師 17 名と学習者 103 名の回答結果から、(1) 両者とも Zoom を用いた同時双方向型授業に対して肯定的な評価が多かったものの、初級レベルの授業を担当する教師達は文字指導・文法導入・会話教育のしにくさを感じており、学生の多くは教室での対面授業を望んでいること⁶、(2) 両者が感じたオンライン授業のメリット・デメリットはかなり共通しており（下記表 3 参照）、違いが見られたのは教師が学生が授業と関係ないことをしているにもかかわらず把握できない点をどう捉えるかであったこと、(3) 接続環境や使用デバイスの整備・ツールの進化が今後の課題であることを報告している。一方、山畑（2021）は、所属大学の一般日本語コース受講生 125 名にオンライン授業（主に同時双方向型）に対する満足度・通信環境・オンライン授業の良い点・悪い点（下記表 3 参照）、

⁶ 河内他（2021）では、教師の 75%がオンライン授業は「対面授業と変わらない」または「対面授業よりやりやすい」と感じていたのに対し、学習者はオンライン授業を肯定的に評価しつつも、45%が「対面授業の方が好きだ」と回答、「オンライン授業の方が好きだ」の 19%を大きく上回ったと報告している。

今後の授業の仕方についての希望などを尋ね、その結果から、(1) 円滑な受講に直接影響する通信環境が授業の満足度と強く関連しており、通信環境の整備がオンライン授業を実施する上で非常に重要であること、(2) 受講生はオンライン授業の必要性や教育効果は一定程度理解しているが、対面授業も実施してほしいという希望が多く、交流の場としての授業にも着目する必要があること⁷、(3) 課題の提出方法が授業によって異なり混乱した、課題の指示内容が不明確だった、課題量が過剰だったなどの訴えが散見されたことから、課題管理に留意する必要があることを指摘している。

表3 先行研究で明らかになった学生のオンライン授業の捉え方

研究	メリット	デメリット
《日本》 河内他 (2021)	「大学に行かなくていい」「宿題・クイズをすぐに見てもらえる」「宿題・クイズをデータでもらえる」「辞書などのオンラインツールを使いやすい」「授業に集中しやすい」「ほかの学生の顔が分かる」「授業と関係ないこともできる」など	「パソコンやインターネットに問題が起こる」「ほかの学生と話しにくい」「目や体が疲れる」「大学に行けない」「授業に集中しにくい」「先生と話しにくい」「宿題やクイズを紙でもらえない」「機器や通信のお金がかかる」「課題が多い」など
《日本》 山畑 (2021)	「通学時間がかからない」「自宅で受講できる」「海外やキャンパス外にいても授業を受けられる」「自分のペースで学習できる」「先生と話しやすい」「教室より集中できる」など	「仲間と会えない」「集中力が続かない」「オンライン授業で力がつくのか不安である」「目や肩など体が疲れる」「オンライン授業は課題などが多く大変である」「先生に質問しにくい」「先生の声が聞き取りにくい」「ネット環境がよくない」「zoom や google classroom などの操作に慣れていない」
《台湾》 山本 (2021)	「学習の利便性」「緊張感や人間関係の緩和」「時間・費用の有効利用と節約」「場所を選ばない」「感染への不安解消」「対面のデメリットの解消」	「機材または慣れの問題」「インタラクションの問題」「自己管理能力の問題」「体調の問題」「授業方法の問題」「PC 学習への違和感」

3.2 台湾におけるオンライン日本語教育に関する研究

台湾の大学で日本語を専攻する学習者がオンライン授業をどのよ

⁷ 山畑 (2021) では、今後の授業の仕方について最も多かったのは「対面授業とオンライン授業どちらも行ってほしい」(36.0%)、次いで「対面授業を積極的に行ってほしい」(28.8%)で、「仲間と会えない」ことがオンライン授業のデメリットとして最多の回答数(77.6%)であったことから、受講生はオンライン授業の必要性や教育効果は一定程度理解しているが、交流の機会を確保してほしいという希望が強いと指摘している。

うに捉えているかを探った研究に今福(2021)、山本(2021)がある。今福(2021)は、所属大学で2019年度後期に約5か月間 Teams を用いたハイフレックス型オンライン授業を受けた日本語学習者2名を対象にインタビュー調査を行った。その結果から、学習者が受講の過程で「教師のデジタルリテラシーの問題」「学習者自身のネット回線や端末の問題」「他のオンライン授業受講者とのグループワークの問題」など自己解決するのが難しい問題に直面し、オンライン授業に対して否定的な意見・態度を持つようになったと報告している。一方、山本(2021)は、所属大学の日本語学習者78名を対象に2020年度後期の学期末と2021年度前期の初めに行われた2度(合計4週間)の全面オンライン授業⁸に関するアンケート調査を行い、その結果から、オンライン授業はデメリットもあるが(上記表3参照)、全体としては否定的に捉えていないことが窺えたと報告している。

3.3 台湾におけるオンライン第二外国語教育に関する研究

盧他(2021)では、第二外国語の会話練習に焦点を当て、教師と学習者のオンライン授業に対する捉え方を比較するため、所属大学で2019年度後期に対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業を体験した第二外国語(西・独・仏・露・日)教師5名と学習者58名にアンケートやインタビュー調査等を行った。その結果から、(1)両者とも対面授業はオンライン授業に取って代わられることのない授業方法であり、オンライン授業では理解度・インタラクションの質・学習意欲・集中力等が低下すると感じていること、(2)教師がデジタルリテラシーを身に付けることがオンライン教育の質の向上に欠かせないことを報告している。

以上の先行研究から、(1)日本語学習者の多くが同時双方向型のオンライン授業を肯定的に評価していること、(2)オンライン授業には、教師と学習者のインターネット環境や使用デバイスの問題、教師のデジタルリテラシーや授業の仕方・課題の出し方の問題など、

⁸ 山本(2021)では明記されていないが、実施されたのは同時双方向型のオンライン授業と思われる。

解決しなければならない様々な問題があることが明らかになった。しかし、大学が提供するオンライン日本語教育を一過性のものとせず、発展させていくために、学習者の立場からそのメリットやデメリット、今後の可能性について更に調査を行う必要があるのではないかと思われる。

4. 調査概要

本稿では、筆者の所属大学応用日本語学科の(1) 学生に行ったオンライン授業に関するアンケート調査結果、(2) 学生が書いたオンライン授業に関する作文の2つのデータを分析し、オンライン日本語授業の現状・課題・可能性等を明らかにし、今後の発展に向けた示唆を得ることを目的とする。データの収集方法は次の通りである。

(1) アンケート調査データ

2021年11月～12月に筆者の所属大学応用日本語学科に在籍し、「ハイフレックス型」「フルオンライン型」「分散型」の3タイプの授業形態⁹を経験した日本語学習者235名(2年生51名、3年生57名、4年生121名、その他6名)を対象に、授業の合間の休み時間等を利用し、Teamsを用いた学科専門科目のオンライン授業に関するアンケート調査を行い収集した。アンケートの質問項目は、「受講環境」「オンライン授業に対する評価」「今後の授業形態に対する希望」の3つに分類できる¹⁰。アンケート調査票¹¹は学習者の負担や時間的制約を考慮して中国語で作成し、選択回答形式にしたが、「その他」という選択肢を設けて、学習者が自分の経験や考えなども自由

⁹ 本学科では、オンライン授業はすべて同時双方向型が採用された。ハイフレックス型授業の実施においてオンラインでの受講が認められたのは主に入国規制等により台湾に戻れなくなった留学生で、それ以外は対面で受講している。

¹⁰ 大学でのオンライン授業の実施にあたり、受講場所、インターネット接続環境、パソコン・周辺機器の設備環境等は学生自身の責任において準備・確保しなければならなかった。今後のためにも理想的な学習環境でオンライン授業を受けるのが困難な学生がどの程度いるのか、或いは学生がどのような問題に直面していたのかを把握する必要があると考えた。また、今後の授業改善に役立つために学生のオンライン日本語授業に対する評価を知るほか、再び感染が拡大した場合に希望する授業形態等についても知っておく必要があると考えた。

¹¹ アンケート調査票は付録1として巻末に添付。

に記述できるようにした。

(2) 作文データ

作文データについては、2022年5月に筆者の所属大学応用日本語学科に在籍し、過去三度のオンライン授業を全て経験し、四度目のオンライン授業を受講中¹²の日本語学習者182名（2年生52名、3年生70名、4年生60名）に、主にライティングの課題として「オンライン授業と対面授業のどちらが好きか」というテーマで自分の考えを述べる400字程度の作文を書かせ収集した¹³。

5. 結果と考察

5.1 アンケート調査データの分析

アンケート調査結果を「受講環境」「オンライン授業に対する評価」「今後の授業形態に対する希望」の順に見ていく¹⁴。

5.1.1 受講環境

学習者の「受講環境」については、オンライン授業で①使用した主な通信端末、②通信の不具合の有無、③遭遇したネット環境や通信機器に関する問題、④集中できる静かで独立した環境の有無の4点を尋ねた。まず、使用した通信端末について見ると、下記図1に示した通り、最も多かったのが「パソコン」(93.6%)、次いで「スマホ」(23.8%)、「タブレット」(7.2%)の順であった(複数回答)。

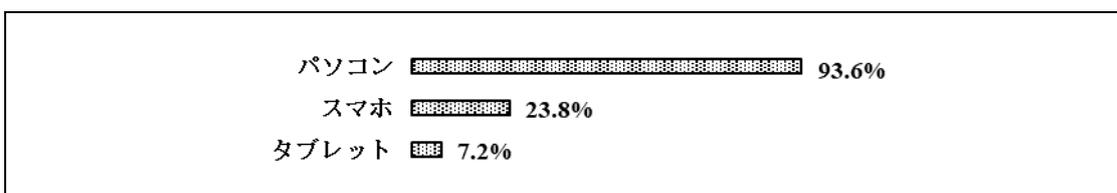


図1 使用した通信端末

次に、通信の不具合の有無については、下記図2に示した通り、

¹² 前述の通り、筆者の所属大学応用日本語学科では過去四度のオンライン授業は全て同時双方向型を採用、一度目はハイフレックス型、二度目はフルオンライン型、三度目は主に分散型、四度目は再びフルオンライン型で実施している。

¹³ 学生から提出された作文は全て添削し返却している。

¹⁴ アンケート調査票の選択肢と学習者の回答(自由記述)は、筆者が日本語訳。

「時々あった」(56.2%)、「ほとんどなかった」(30.2%)、「かなりあった」(8.1%)、「全くなかった」(5.5%)の順であった。

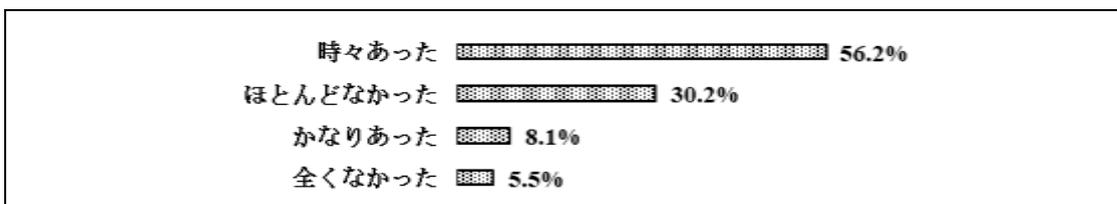


図 2 通信の不具合の有無

続いて、学習者が遭遇したネット環境や通信機器に関する問題については、下記図 3 に示した通り、「音声や映像が途切れる・聞き取りにくい・見えにくい」(69.8%)、「ネット環境が不安定で授業を受けるのに支障が生じた」(52.3%)、「マイクの音量を最大にしても声が聞こえない・声が小さいと言われた」(23.8%)、「関連機器の購入などで経済的負担が生じた」(14.0%)の順に多かった(複数回答)。その他、パソコンの性能・マイクの雑音・Teams のパフォーマンス・ネットの通信速度などの問題が挙げられた。記述欄には「学生寮に住んでいるので Wi-Fi の通信速度が遅く、音声や映像が途切れたりして、授業に集中できなかった」「パソコンが古くて処理が追いつかず授業を円滑に受けられないことがあったが、親にこれ以上経済的負担をかけたくないので我慢した」などそれぞれが直面した問題が書かれていた。

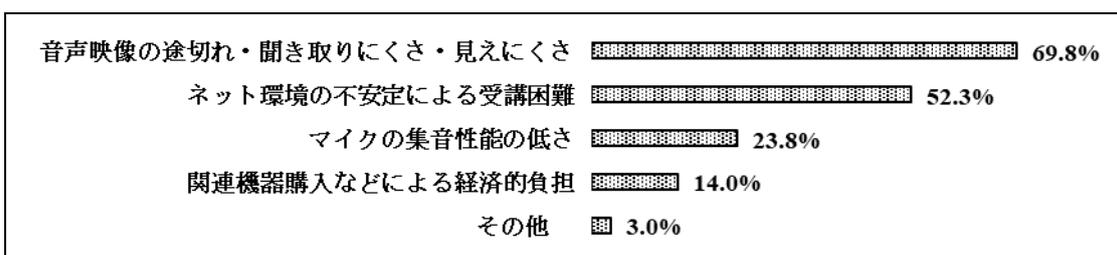


図 3 遭遇したネット環境や通信機器に関する問題

そして、オンライン授業を受ける時、集中できる静かで独立した環境があったかという質問には、下記図 4 に示した通り、84.3%が「はい」、15.7%が「いいえ」と回答した。記述欄には「ルームメイトの邪魔をしないように気をつけながら授業を受けるのは本当に疲れる」「別の大学の日本語学科に通う妹と同じ部屋でオンライン授業

を受けていたので、例えば妹が会話授業を受ける時、私は喫茶店へ行きスマホで授業を受けた」などの経験談が書かれていた。

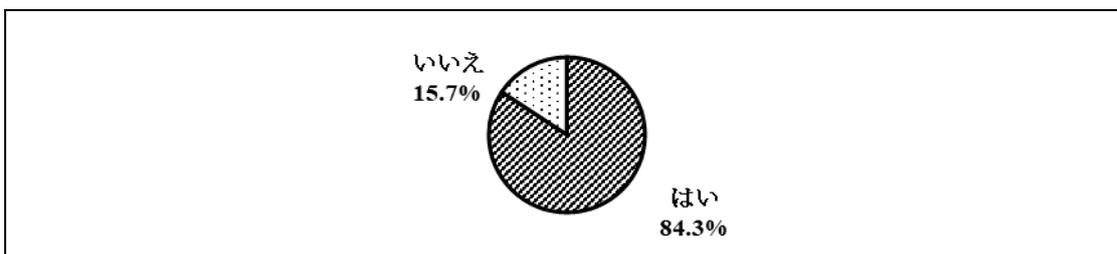


図4 集中できる静かで独立した環境の有無

以上から、半数以上の学習者がネット環境や使用デバイスに関するトラブルに遭遇し、一部の学習者については静かで集中できる受講場所もない中でオンライン授業を受けていた実態が見えてきた。

5.1.2 オンライン授業に対する評価

「オンライン授業に対する評価」については、①オンライン授業で良かった点・困った点、②学科専門科目のオンライン授業に対する満足度、③学科専門科目のオンライン授業で満足できた点・不満だった点、④学科専門科目でオンライン授業に向いていると思う科目・向いていないと思う科目、⑤今後オンライン授業を円滑に行うために改善が必要だと思う点を聞いた。まず、オンライン授業で良かった点については、下記図5に示した通りである(複数回答)。「通学時間がかからなかった」(98.7%)、「時間を有効に活用できた」(67.2%)、「自分の家や好きな場所で授業が受けられた」(80.9%)、「リラックスして授業が受けられた」(69.4%)、「クラスメイトの目を気にしなくてよかった」(49.4%)などの回答が多く、時間の効率性やストレスからの解放をメリットと考える学習者が多いことが分かる。一方、オンライン授業で困った点は、下記図6に示した通りである(複数回答)。「通信回線や通信機器の不具合で授業を受けるのに支障が生じた」(57.9%)、「集中力が続かなかった」(48.1%)、「分からないことがあっても友達に聞けなかった」(41.7%)、「先生に質問や発言がしにくかった」(19.1%)、「対面授業より課題が増えた」(47.7%)、「目の疲れや肩こりなど身体的疲労を感じた」(51.1%)、「友達と会えず孤独を感じた」(36.3%)などの回答から、学習効率

の低さ、課題の多さ、身体的な疲れ、人との関りの少なさなどをデメリットと考える学習者が多いことが分かる。

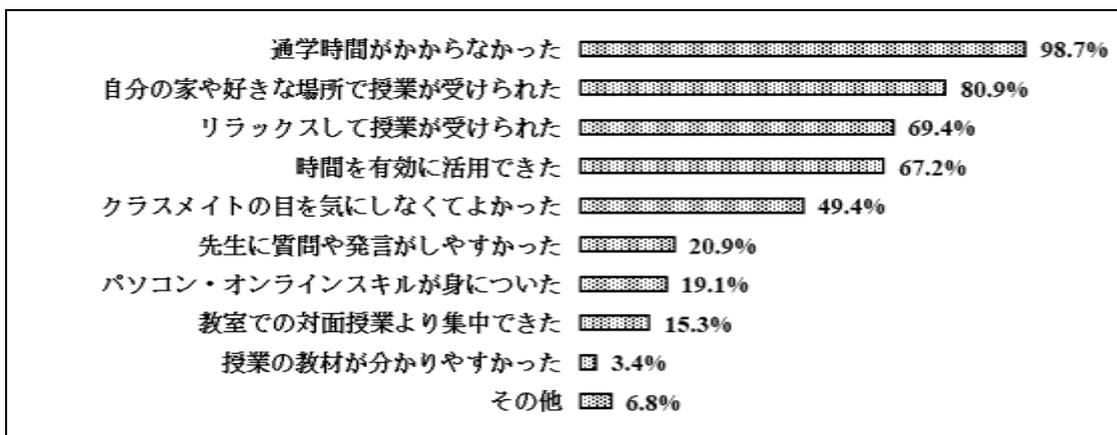


図 5 オンライン授業で良かった点

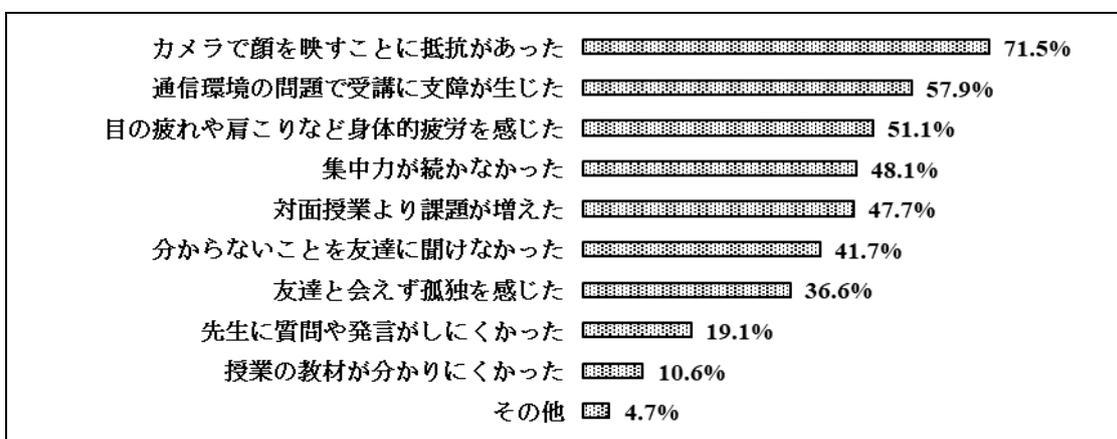


図 6 オンライン授業で困った点

次に、学科専門科目のオンライン授業に対する満足度は、下記図 7 に示した通りである。「かなり満足」が 9.8%、「やや満足」が 49.4%、「普通」が 37.4%、「やや不満」が 3.4%、「かなり不満」が 0.0%で、不満の 3.4%に対し、満足が 59.2%と、学習者の多くが学科専門科目のオンライン授業を肯定的に評価していた。

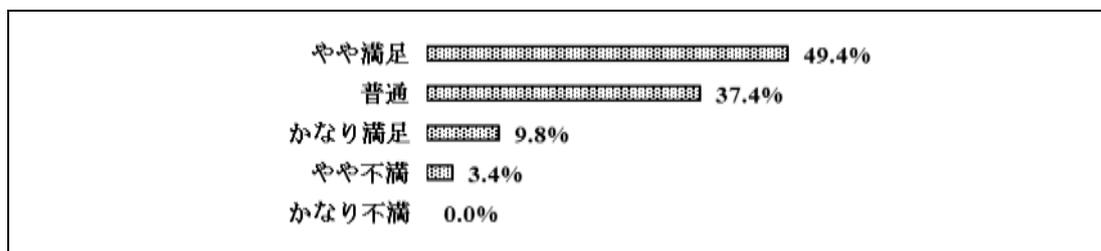


図 7 学科専門科目のオンライン授業に対する満足度

続いて、学科専門科目のオンライン授業で満足できた点は、下記図 8 に示した通りである（複数回答）。最も多かったのが「先生の

工夫や熱意が感じられた」(76.2%)であった。記述欄には「先生方は学生が教室で授業する時と同じ学習効果が得られるように十分努力していた」「先生が授業の録画や教材を全て Moodle にアップロードするので、それを見て復習できた」「授業の進度が緩やかになり、授業内容をしっかり吸収できるようになった」などの記述があり、教師が授業の質を保つために努力したことが窺える。

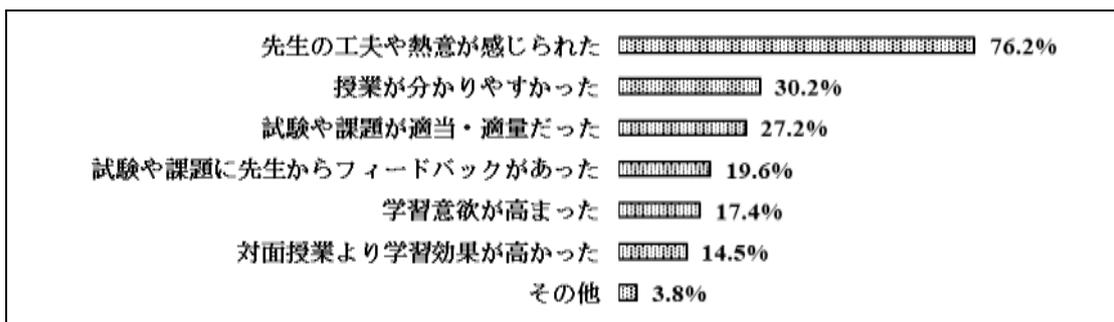


図 8 学科専門科目のオンライン授業で満足できた点

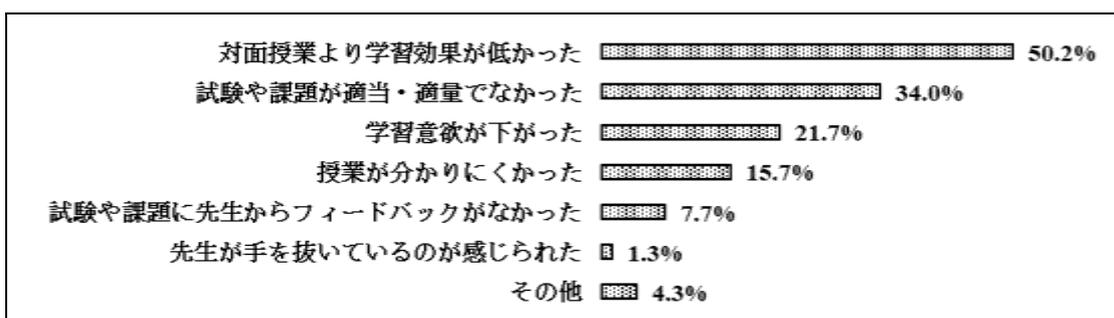


図 9 学科専門科目のオンライン授業で不満だった点

一方、学科専門科目のオンライン授業で不満だった点については、上記図 9 に示した通りである（複数回答）。最も多かったのが「対面授業より学習効果が低かった」(50.2%)であった。記述欄には「自分の通信環境のせいで授業を受けるのに問題があった」「自宅で授業を受けるのでリラックスしすぎてしまった」「一部の科目はオンライン授業に向いていない」など、それが教師要因ではないという考えを示す記述があった。その一方で、「先生がオンライン授業に慣れていないと授業の質が低下する」「なかなか発言できない学生もいるので、工夫してコミュニケーションを増やせば授業を面白くできると思う」など教師要因であるという捉え方を示す記述も見られた。オンライン授業の質を高めるには、通信環境の整備とともに

教師がオンラインツールの操作に慣れ、各科目に合った授業デザインをすることが必要不可欠だと言える。その他、約3分の1の学習者が「試験や課題が適当・適量でなかった（過剰）」と回答している。学習者のためを思っていることだろうが、今後教師は学習者の負担に配慮する必要があるだろう。

そして、学科専門科目でオンライン授業に向いていると思う科目・向いていないと思う科目については、下記図 10 に示した通りである。学習者が実際にオンライン授業を受け、「話す・書く・読む・聞く・訳す」の5技能を教える科目のうち、特に教師・学習者間或いは学習者間のインタラクションが多い「会話」はオンライン授業に向かず、5技能以外で講義中心の「文学」と「日本事情」（日本の政治・経済・地理・歴史・風俗・思想・科学などに関する科目）などはオンライン授業に向いていると考えていることが分かった。河内他（2021）や盧他（2021）でもオンラインによる会話教育の難しさが指摘されている。

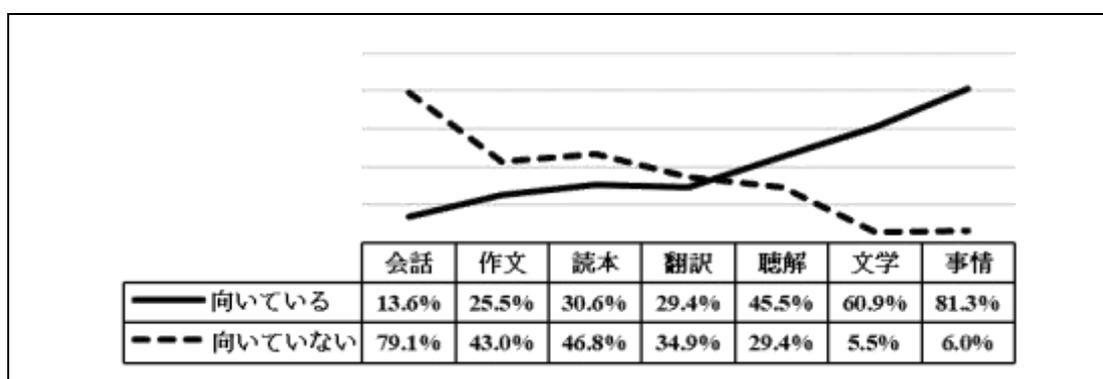


図 10 オンライン授業に向いている／向いていない学科専門科目

また、学習者が今後オンライン授業を円滑に行うために改善が必要だと思う点については（複数回答）、下記図 11 に示した通りである。最も多かったのは「ネット回線の速度」（54.5%）、次いで「オンラインツールの機能」（44.3%）、「先生の授業方法」（27.7%）、「自分の通信機器」（24.7%）、「先生と学生のコミュニケーション」（23.4%）の順であった。先行研究でも、通信環境の整備、ツールの進化、教師のデジタルリテラシーの向上及び授業方法（コミュニケーションの取り方や課題の出し方を含む）の調整等が今後の課題

として指摘されており、本調査でも同様の結果を得たと言える。

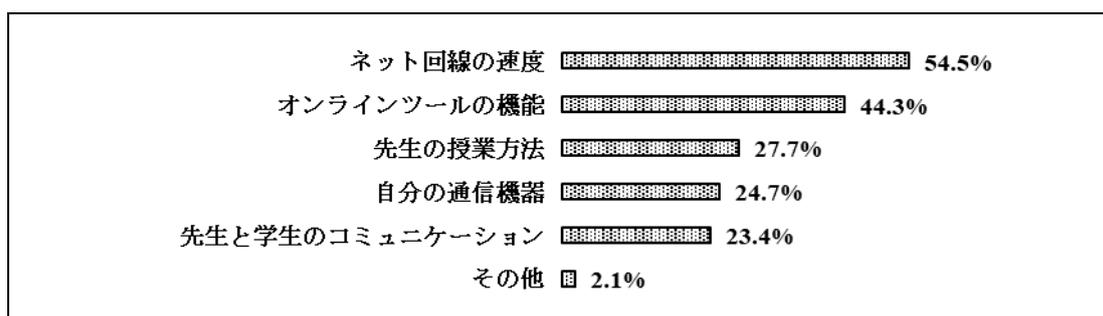


図 11 今後のオンライン授業のために改善が必要な点

5.1.3 今後の授業形態に対する希望

「今後の授業形態に対する希望」については、再び感染が拡大した場合に希望する授業形態¹⁵を尋ねた結果、下記図 12 に示した通り、「フルオンライン授業」(71.9%)、「分散授業」(16.2%)、「全面对面授業」(9.8%)の順に多かった。また、「その他」の欄に「分散授業は避けてフルオンライン授業か全面对面授業のどちらかに統一してほしい」という記述が見られた。これは、2021 年度前期の初めに行われた分散授業の混乱が原因していると思われる。今福(2021)でもハイフレックス型のオンライン授業を受けた学習者の否定的な意見が報告されているが、対面側とオンライン側の学習者が同時に同じ内容を学ぶ分散型やハイフレックス型の授業は、教師が両方に気を配っても、どちら側にとっても非効率な面があり、不満が生じやすいと言えるだろう。

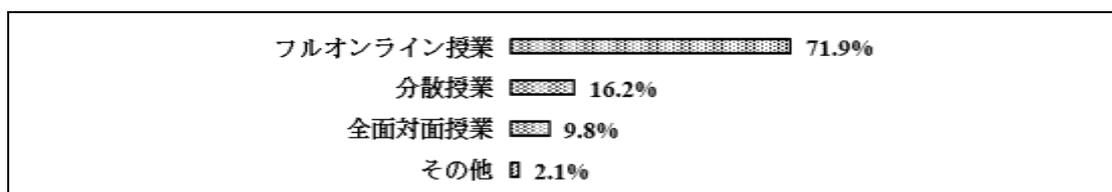


図 12 再び感染が拡大した場合に希望する授業形態

5.2 作文データの分析

本研究では、アンケート調査の不足を補う目的で作文データも収集した。選択回答形式のアンケート調査とは異なり、作文には学習者のオンライン授業に関する具体的な経験や考えが詳しく書かれて

¹⁵ ハイブリッド型授業のうち、学習者を半分ずつ対面とオンラインに分けることで確実に教室での密集を避けられる「分散型」のみを選択肢の一つとした。

いるはずである。学習者 182 名¹⁶が「オンライン授業と対面授業のどちらが好きか」というテーマで書いた作文から「授業形態の好み」「オンライン授業の良い点・悪い点」「オンライン授業に対する感想等」という 3 つの要素を取り出して分析する¹⁷。

5.2.1 授業形態の好み

まず、学習者の「授業形態の好み」については、下記図 13 に示した通りである。いずれの学年も「対面授業」が 6 割以上で最も多く、次いで「オンライン授業」が 3 割前後、「どちらとも言えない」が 1 割以下であった。そして、作文データを分析した結果、対面授業を好む学習者（計 121 名）の多くが大学生生活全般を重視し、現時点ではまだ環境が整っておらずオンライン授業が対面授業に取って代わることはできないと考えていることが分かった。一方、オンライン授業を好む学習者（計 53 名）には下記図 14 に示した通り、「通学に非常に大きな苦痛を感じている」（62.3%）、「オンライン授業のメリット・学習効果を強く感じている」（30.2%）、「人付き合いに苦手意識を持っている」（11.3%）、「感染リスク回避の必要性がある」（7.5%）など、4 つの傾向が見られた。下記表 4 に学習者の産出作文に書かれていたオンライン授業を好む理由をいくつか例として挙げた。産出文例から、遠距離通学で心身ともに疲弊していた学生や学校での人間関係に強いストレスを感じていた学生にとってコロナ禍でのオンライン授業が「救い」になったことが窺える。彼らのように通学に苦痛を感じる学生以外にも、社会には知識や技能の習得を欲しながら何らかの事情で従来型の対面授業を受けるのが困難な人々がいる。ICT¹⁸環境の整備を進め、こうした人々に「教室以外の場で学ぶ」という選択肢を提供し、多様な人材・優れた資質を備えた人材を迎

¹⁶ 筆者の所属大学応用日本語学科で過去三度のオンライン授業を全て経験し、四度目のオンライン授業を受講中の学習者で、その多くは本稿 5.1 のアンケート調査に協力している。

¹⁷ 以下で提示する学習者の産出文は、筆者が文法・表記の誤りや不自然な表現を修正し、文体を普通体に統一したものである。

¹⁸ 「Information and Communication Technology」の略称で、日本語では「情報通信技術」と訳されている。

え入れることは、少子化時代の大学の生き残り策の一つになるのではないだろうか。また、産出文例からは、自律的な学習者がオンラインの特性を享受し効果的な学びをしていることや授業のオンライン化が内気で話すのが苦手だった学習者の積極的な学びを促したことも読み取れる。こうした学習者の「学ぶ姿勢」はオンライン授業の成否を分ける要因の一つと言えるだろう。

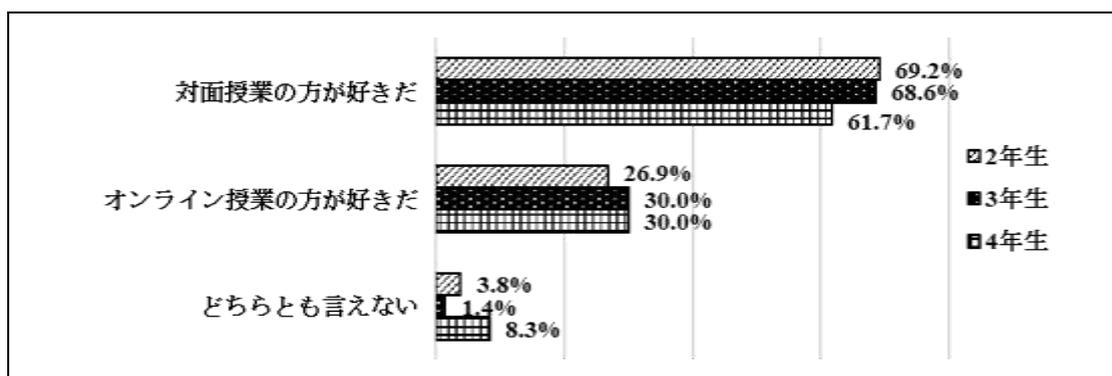


図 13 学習者の授業形態の好み

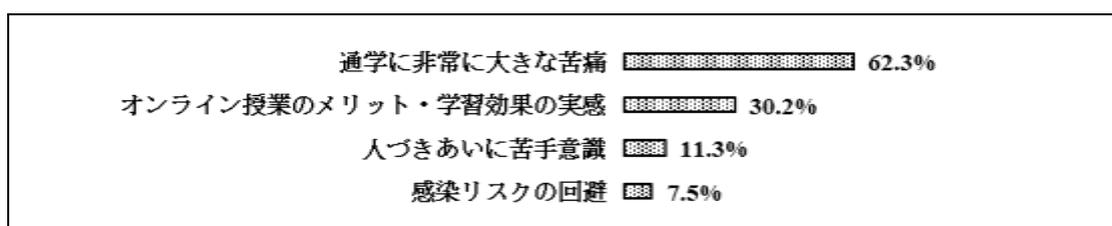


図 14 オンライン授業を好む学習者の理由

表 4 学習者がオンライン授業を好む理由（産出文例）

<p>(1) 通学に非常に大きな苦痛を感じている</p> <p>① 通学に往復 4 時間かかる。オンライン授業は時々雑音のせいで先生の話が聞き取れないが、学校に行かなくていいなら大した問題ではない。</p> <p>② 毎日 3 時間以上を通学に費やしている。オンライン授業になったら、早起きする必要がなく睡眠時間が増えるので、ありがたい。</p> <p>③ 毎日バイクで片道 1 時間かけて学校に通っているの、とても疲れる。雨の日は最悪だ。だから、長い時間バイクに乗るより、長い時間椅子に座る方を選ぶ。</p>
<p>(2) オンライン授業のメリット・学習効果を強く感じている</p> <p>① 教室後方からはホワイトボードに書かれたものやスクリーンに投影されたものがよく見えない。パソコン画面ならそのような問題が発生しないので、オンライン授業の方が好きだ。</p> <p>② 教室ではクラスメイトのお喋りがうるさくて集中できないことがあるが、オンラインだと先生の声しか聞こえないので集中できる。</p> <p>③ 授業の録画を見て復習できるので、オンライン授業の方が好きだ。</p> <p>④ 知らない単語があったら意味や読み方をすぐオンライン辞書で調べられるし、資料を探すのも便利だ。</p> <p>⑤ 私は恥ずかしがり屋だが、オンライン授業ならチャット機能を使って先生に質問することができる。</p> <p>⑥ 私は緊張しやすい性格で、オンライン授業は相手の目を見て話さなく</p>

<p>ていいので楽だ。オンライン授業になってから発言回数が増えた。 ⑦マルチメディアリソースを活用した授業は面白くて分かりやすい。</p>
<p>(3) 人付き合いに苦手意識がある ①私は一人でいることが大好きだ。学校に行って、友達付き合いのストレスでよく体調不良になる。オンライン授業だったら、他の人と会話しなくて済むので、私にとって最高の環境だ。 ②私は人と交流することが苦手だ。クラスメイトや先生と顔を合わせる必要がないオンライン授業が、私は大好きだ。</p>
<p>(4) 感染リスク回避の必要性がある ①オンライン授業だと、感染の危険がないので、一緒に住んでいる家族の健康を守れる。 ②私の父は体がよくない。学校は人が多いので感染するリスクが高く、ウイルスを家に持ち帰る可能性があるので心配だ。</p>

5.2.2 オンライン授業の良い点・悪い点

次に、学習者が感じた「オンライン授業の良い点」については、下記図 15 に示した通りで、「学校に行かなくていい」(72.0%) が突出して多いのが特徴的である¹⁹。また、「授業を録画できる」(13.2%)、「質問・発言がしやすい」(5.5%)、「集中できる」(4.4%) など学習効果の向上につながるような点をオンライン授業のメリットとして実感した学習者はそれほど多くないことが分かる。下記表 5 に学習者の産出作文に書かれていたオンライン授業の良い点をいくつか例として挙げる。

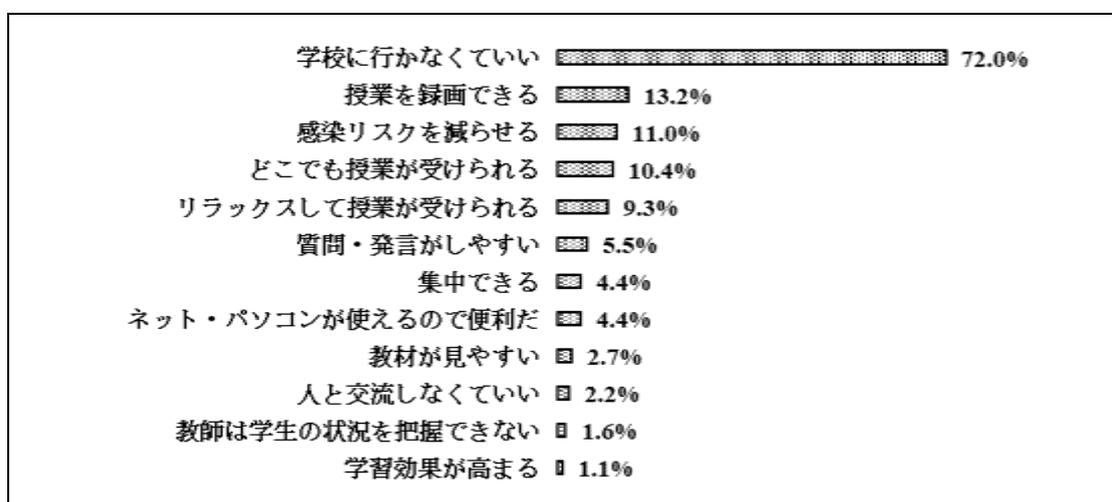


図 15 学習者が実感したオンライン授業の良い点

¹⁹ アンケート調査結果をまとめた本稿図 5「オンライン授業で良かった点」と見比べて違いがあるように思われるかもしれないが、「学校に行かなくていい」は、アンケート調査の選択肢のうち「通学時間がかからなかった」「時間を有効に活用できた」など時間の効率性に関わるもの、「自分の家や好きな場所で授業が受けられた」「リラックスして授業が受けられた」などストレスからの解放に関わるものを含むと解釈すれば、大きな違いはないと言える。

表5 学習者が実感したオンライン授業の良い点（産出文例）

<p>(1) 学校に行かなくていい</p> <p>① オンライン授業のメリットは、通学時間や費用を節約できることだ。</p> <p>② 交通にかける時間を節約できて、その時間を授業の予習や試験の準備に使えるので、オンライン授業がいいと思う。</p> <p>③ オンライン授業になると、睡眠時間と自由に利用できる時間が増える。</p> <p>④ オンライン授業なら、ぎりぎりまで寝ていても遅刻の心配がない。</p>
<p>(2) 授業を録画できる</p> <p>① オンライン授業は録画できるので、授業が終わってから聞き取れなかった部分や聞いていなかった部分を見て復習できる。</p> <p>② 授業を録画していつでも復習できるので、大変助かる。</p>
<p>(3) 感染リスクを減らせる</p> <p>① 対面授業はマスクをしても感染の危険性がある。オンライン授業の方がもっと安全だ。</p> <p>② 大学の学生食堂でご飯を食べる時は大きな感染の機会だ。学校に行かないで、家にいるのがいい方法だと思う。</p>
<p>(4) どこでも授業が受けられる</p> <p>① オンライン授業のメリットは、スマホやパソコンさえあれば、どこでも授業を受けられることだ。</p> <p>② 優雅に喫茶店でミルクティーを飲みながらパソコンを使ってリモートで授業を受けることができる。</p>
<p>(5) リラックスして授業が受けられる</p> <p>① オンライン授業なら、学校に行くために早起きする必要はないし、着替える必要もないし、ゆっくり朝ご飯を食べながら授業を受けることができる。ベッドで寝ながら授業を受けることだってできる。</p> <p>② オンライン授業の時、自分の部屋で自分の椅子に座って授業を受けることができるので落ち着く。</p>
<p>(6) 質問・発言がしやすい</p> <p>① 私は恥ずかしがり屋だが、オンライン授業ならチャット機能を使って先生に質問することができる。</p> <p>② オンライン授業はあまり緊張しないので、発言回数が増えた。</p>
<p>(7) 集中できる</p> <p>① 教室ではクラスメイトのお喋りがうるさくて集中できないことがあるが、オンラインだと先生の声しか聞こえないので集中できる。</p> <p>② 自分の部屋で一人で授業を受けるので集中できる。</p>
<p>(8) ネット・パソコンが使えるので便利だ</p> <p>① 知らない単語があったら意味や読み方をすぐオンライン辞書で調べられるし、資料を探すのも便利だ。</p> <p>② すぐ辞書で調べたり、資料を探したり、ノートを取ったりできる。</p>
<p>(9) 教材が見やすい</p> <p>① 教室後方からはホワイトボードに書かれたものやスクリーンに投影されたものがよく見えない。パソコン画面ならそのような問題が発生しないので、オンライン授業の方が好きだ。</p>
<p>(10) 人と交流しなくていい</p> <p>① 私は人と交流することが苦手だ。クラスメイトや先生と顔を合わせる必要がないオンライン授業が、私は大好きだ。</p>
<p>(11) 教師は学生の状況を把握できない</p> <p>① 授業中に先生に気づかれずにゲームができるのが、オンライン授業のメリットの一つだ。</p>
<p>(12) 学習効果が高まる</p> <p>① マルチメディアリソースを活用した授業は面白くて分かりやすい。</p>

一方、学習者が感じた「オンライン授業の悪い点」は、下記図 16 に示した通りである。「ネット環境や使用デバイスの影響を受けやすい」(45.6%)、「コミュニケーションが不便だ」(35.2%)、「集中できない」(30.2%)、「人との交流が少ない」(28.6%)、「身体的疲労がある」(20.9%)、「学習意欲が低下する」(18.1%)、「教師のデジタルリテラシーが授業の質に影響する」(12.1%) など様々な問題点が指摘されている。選択回答形式のアンケート調査では把握できなかった問題点も記述されており²⁰、学習者がオンライン授業の様々なデメリットをメリット以上に強く実感していることが分かる。下記表 6 に学習者の産出作文に書かれていたオンライン授業の悪い点をいくつか例として挙げる。

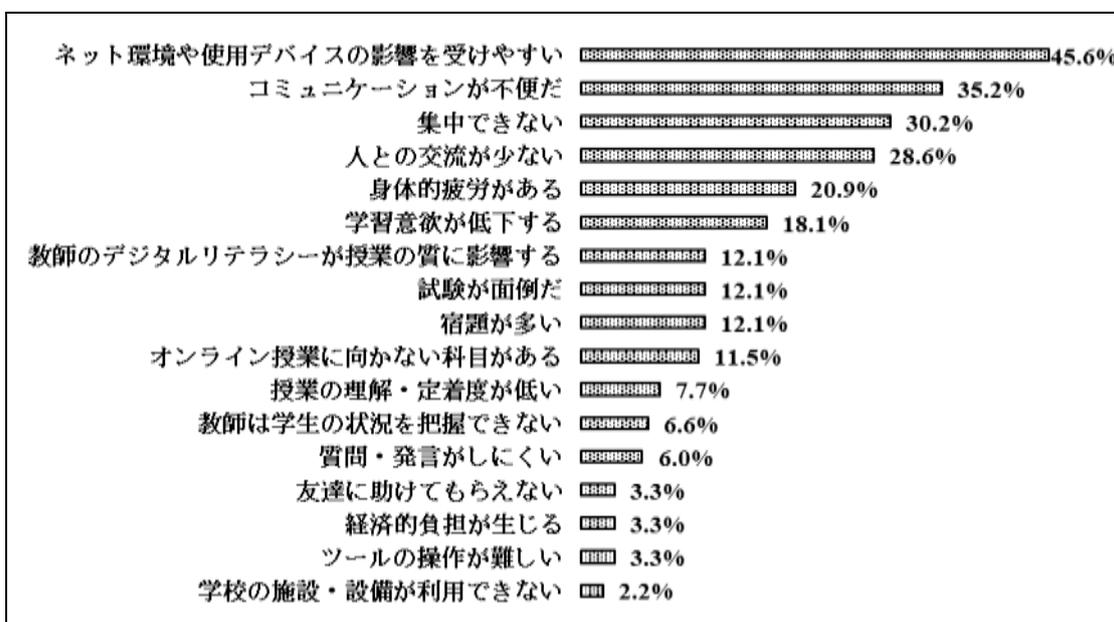


図 16 学習者が実感したオンライン授業の悪い点

表 6 学習者が実感したオンライン授業の悪い点 (産出文例)

<p>(1) ネット環境や使用デバイスの影響を受けやすい</p> <p>① インターネットやマイクの問題で、先生やクラスメイトの声がよく聞こえないことが多い。</p> <p>② 通信環境の問題で、Teams に接続できなかったり、音声途切れたり、映像や固まったりすることがある。</p> <p>③ 学校のサーバーがダウンして授業ができなくなったことがあった。</p>
<p>(2) コミュニケーションが不便だ</p> <p>① グループで宿題をする時、みんなの通信環境は様々なので、討論が面倒で、討論に参加しない人も出てきて、少し嫌だ。</p> <p>② 普段授業で分からないことがあっても、恥ずかしくて手を挙げて質問</p>

²⁰ アンケート調査結果については本稿図 6 参照。

<p>することができない。そんな時、先生の所へ行って、あるいは先生が近くに来た時に聞く。オンライン授業だとメールで質問しなければならず、先生が読まなければ返事がもらえない。返事をもらっても、先生の説明が理解できないことがある。</p>
<p>(3) 集中できない</p> <p>① 対面授業より集中力が切れやすく、途中で寝てしまったりする。</p> <p>② オンライン授業の時、スマホやパソコンを使って授業を受けるので、他のことに集中力を奪われがちだ。例えば、Line 通知が来ていないかチェックしたり、YouTube や Netflix を見てしまったりする。</p> <p>③ 授業中に家族が私に話しかけたり、傍を行ったり来たりするので集中できない。テレビやペットが気になって集中できないこともある。</p>
<p>(4) 人との交流が少ない</p> <p>① 学校に行ったら、友達と一緒に授業を受けたり、おしゃべりしたり、遊んだりできる。私は友だちに会いたい。</p> <p>② ずっと部屋で一人でパソコンに向かっているのは寂しい。早く学校に戻りたい。</p>
<p>(5) 身体的疲労がある</p> <p>① パソコンの画面を長時間見ると、目が疲れてしまう。</p> <p>② ずっとパソコンの前に座っているので、目に悪いし、腰も痛くなるし、とても疲れる。</p>
<p>(6) 学習意欲が低下する</p> <p>① 対面授業は先生とクラスメイトに直接会えるし、クラスメイトが隣で勉強している姿を見たら、「自分も頑張らない」と思って、やる気が出る。オンライン授業は周りに誰もいないので怠けやすい。</p> <p>② オンライン授業は単調でつまらないので、眠くなる。</p>
<p>(7) 教師のデジタルリテラシーが授業の質に影響する</p> <p>① 一部の先生は Teams をうまく使えないので、たくさんの時間を無駄にしている。</p> <p>② 一部の先生は Teams の使い方が分からないので、音声がかええないことや画面が見えないことがよく起こる。それで、オンライン授業は学習効率がとても低いと思う。</p>
<p>(8) 試験が面倒だ</p> <p>① 会話の授業で口頭試験をすることになっていたが、皆の音が聞こえないので、先生は試験を中止することにした。</p> <p>② 試験中にカメラをオンにしておくよう要求する先生がいるが、私のパソコンにはカメラがないので、スマホで試験を受けなければならない。とても面倒だ。</p>
<p>(9) 宿題が多い</p> <p>① 授業の時に試験をしにくいので、レポートの宿題の量が増えて疲れる。</p> <p>② オンライン授業になると、宿題が多くなって、毎日たくさんの宿題をやらなければならないので、睡眠時間が減る。</p>
<p>(10) オンライン授業に向かない科目がある</p> <p>① 会話と聴解の授業で通信状況が悪くなったら、試験は言うまでもなく、授業さえも上手くいかない。</p> <p>② 会話のような授業は、直接対面で練習した方が効果があると思う。</p>
<p>(11) 授業の理解・定着度が低い</p> <p>① 教室で先生の説明を聞いた方が授業の内容がよく分かる。</p> <p>② 私の経験では、オンライン授業は対面授業より授業の内容を理解するのに時間がかかる。</p>
<p>(12) 教師は学生の状況を把握できない</p> <p>① 学生の様子が見えないし、学生があまり質問をしないので、先生は学生が授業の内容を理解しているかどうか分からない。</p>

②先生は学生が真剣に授業を受けているか確認することができない。

ここまで、学習者が感じたオンライン授業の良い点・悪い点を整理したが、通信環境・端末の不具合や教師のスキル不足のほか、学習者の学ぶ姿勢も、大きな課題として浮かび上がった。作文データからは、「録画で授業の見直しができる」「人目を気にせず質問や発言ができる」「周りに邪魔されず授業に集中できる」「ネットやパソコンが使えるので、すぐ辞書で調べたり資料を探したりできる」などオンラインの特性を活かした能動的・効果的な学びをしている学習者がいる一方で、「家だと緊張感がなく誘惑も多いので集中できない」「友達がいないと勉強する気になれない」「先生が気づかないからサボってしまう」「注目されることに抵抗があり質問や発言がしづらい」など主体性の欠如によりオンライン授業のメリットを享受できずにいる学習者が少なくないことが明らかになった。つまり、今後オンライン授業が成功・発展するには通信環境や端末の整備、教師のデジタルリテラシーの向上や授業方法（コミュニケーションの取り方や課題の出し方を含む）の調整のほかに、学習者の自己管理能力の向上が欠かせない要素になると言えるだろう。

5.2.3 オンライン授業に対する感想等

学習者の作文の大半は、授業形態の好みとその理由の2つの要素から構成されていたが、中にはオンライン授業に対する感想や意見、要望が述べられているものも見られた。下記表7に、学習者が四度のオンライン授業を経験し、どのような感想や意見、要望を持ったのかを整理した。教師に授業の改善（課題の出し方や試験の仕方を含む）やデジタルリテラシーの向上を求める声、オンライン授業を受ける環境が整っていない学生への配慮を求める声、オンライン教育の将来性を指摘する声など、いずれも今後オンライン教育を成功・発展させていくために耳を傾けるべき声だと思われる。

表7 学習者のオンライン授業に対する感想等（産出文例）

(1) 先生に授業の仕方を考えてほしい [18名]

- ①授業の時、もっと先生やクラスメイトと話したい。
- ②先生が一人で話している授業はつまらない。Teamsのチャット機能やKahoot!を使うとみんなが参加できて授業が面白くなる。

<p>③家で授業を受けていると気が散りやすいので、皆がもっと集中できる活動を取り入れてほしい。</p>
<p>(2) 学校は勉強するだけの場所ではない [13名]</p> <p>①対面授業は学校のもう一つの大事な役割を果たしている。そう、友達と会う機会を提供することだ。学校は勉強だけの場所ではない。ずっと一人で勉強してもつまらない。友達に会えないのは寂しい。</p> <p>②学校で友達と食事をしながら楽しくおしゃべりする時間も大学生活の一部だ。今コロナのせいで、それができなくてとても悲しい。</p> <p>③友達と一緒に何かするから退屈な毎日が面白くて楽しくなると思う。家で一人で授業を受けるなら大学に入った意味がない。</p>
<p>(3) オンライン授業には将来性がある [10名]</p> <p>①オンライン授業の欠点が改善されれば、学習方法の一つとしてもっと普及するだろう。今後学校には一部の授業をオンライン化するという考え方が必要だと思う。</p> <p>②コロナが収束してからも、一部の授業をオンライン化すれば、授業が多様化して、勉強が面白くなると思う。</p> <p>③政府や企業が通信環境がない地方の子供を助けてオンライン授業をもっと普及させれば、教育格差が縮まる。通学するのが難しい遠方の学生が自宅でのオンライン受講を選択できるようにすることは、学生だけでなく、少子化で大変な大学にとってもいいことだと思う。</p>
<p>(4) 通信環境が整っていない学生に配慮してほしい [7名]</p> <p>①たくさんの学生は家でオンライン授業を受けるのはとても便利だと思っているが、パソコンやタブレットがない学生は困っている。</p> <p>②ネット回線が不安定な学生のために、Teams の録画機能を使い授業を録画して Moodle にアップロードした方がいいと思う。</p>
<p>(5) 適切な受講場所がない学生に配慮してほしい [7名]</p> <p>①自宅ではなく寮に住んでいる。ルームメイトの出す声や音で授業に集中できないし、会話練習や口頭発表の時にルームメイトに迷惑がかけってしまうので困っている。</p> <p>②オンライン授業を受けている時、家族が部屋に入ってきて話しかけるので集中できない。学校の図書館や LL 教室を利用したいが、今学校の施設は利用できないので、重いパソコンを持って喫茶店へ行くこともある。お金がかかるので、毎日喫茶店へ行くのは無理だ。</p>
<p>(6) 先生に Teams などの操作に慣れてほしい [6名]</p> <p>①Teams の操作がよく分からない先生がいる。チャット機能やブレイクアウトルーム機能などは便利なので、使えるようになってほしい。</p> <p>②最初の頃、画面共有ボタンがどこにあるかも知らない先生がいた。今はそんなことはないが、先生が Teams の操作に不慣れだと授業の流れが中断してしまうので、先生に操作方法を覚えてほしい。</p>
<p>(7) 先生に宿題の量を減らしてほしい [4名]</p> <p>①オンライン授業になって宿題が増えてキツイ。量を減らしてほしい。</p> <p>②またオンライン授業になるなら、レポートの宿題を少なくしてほしい。今学期はレポートを書くために夜更かしする回数が増えて、体の調子が悪くなった。</p>
<p>(8) 学費が無駄になったと感じる [4名]</p> <p>①オンライン授業は授業を受けている実感が持てない。学校の施設や設備も使えず、払った学費が無駄になったと思う。</p> <p>②ネットが繋がりにくい時などは学校へ行って受講したい。学費を払ったのに、学校の施設や設備を何も使えないのはよくないと思う。</p>
<p>(9) 授業形態より学習態度が重要だ [3名]</p> <p>①何よりも大切なことはしっかり勉強することだ。授業方法より怠惰にならないことが重要だ。</p>

②どんな授業方法でも、真面目に勉強することが大事だ。
(10) 先生に試験の仕方を考えてほしい [2名] ①オンラインで試験を受ける時、何が起るか分からなかったので心配だ。オンライン授業になったら、試験はレポート提出にしてほしい。 ②試験の時、私は日本語の入力が遅いので困っている。ある試験で先生が私たちに早く提出しろと言ったので、間に合わなかった。
(11) 先生に通信環境を改善してほしい [2名] ①先生のネットやマイクの問題で、先生の声が聞こえないことがある。そういうことが起きないように方法を考えてほしい。 ②またオンライン授業をするなら、先生たちに高性能なパソコンとマイクを使ってほしい。雑音がひどくて先生が何を言っているのか全然聞こえない。これは私がオンライン授業で困っていることの一つだ。
(12) 先生だけでなく、学校の取り組み姿勢も重要だ [2名] ①学校は先生に全ての責任を押し付けるのではなく、オンライン授業を円滑に進めるために十分な対策を講じるべきだ。 ②学校はネットワーク障害が起きないようにして、教師と学生には Teams などの操作方法をしっかり教えるべきだ。
(13) 学校に授業時間を短縮してほしい [2名] ①毎日パソコン画面を長い時間見続けて目が悪くなった。できれば授業の時間を短くしてほしい。 ②長い時間パソコンに向かっていると、ブルーライトが心配だし、集中力も落ちてくる。日本の一部の大学では通常より授業時間を短縮しているそうだ。私たちの大学でもそうすべきだと思う。

これら学習者の声を具体的な施策に結び付けるために、学校への要望と教師への要望に分けて整理する。まず、オンライン授業の実施にあたり学習者が学校に求めていることは、ICT環境の整備、教師や学生に対するICTリテラシー向上のためのサポート、経済的事情を抱えた学生や適切な受講場所のない学生に対する十分なサポート²¹、学生の身体的・精神的疲労を考慮した授業の実施方法等²²であり、更にはこうした課題をクリアして、コロナ収束後もオンライン授業を一定の割合で続けることを望む学習者もいる。一方、教師に求めていることは、ICTリテラシーの強化を図り、コミュニケーションと活気に溢れる授業を設計・実施して学生のモチベーションを高め、授業内容の理解と定着を促すこと、学生を一人も取り残さないための配慮をすること、例えば通信環境や受講場所に問題がある学生のために授業を録画し、Moodleなどにアップロードすることも

²¹ 日本の芝浦工業大学を例にとると、パソコンを持たない学生にパソコンを貸与したほか、パソコン周辺機器や通信費など受講環境整備のために在學生に臨時奨学金を支給している

²² 例えば、科目の性質や教育効果を考慮して同時双方向型とオンデマンド型の2種類の授業を開講する、授業時間を短縮するなどが考えられる。

その一つである。そうすれば、彼らだけでなく、授業を欠席したり、聞き漏らしたり、理解できなかつたりした学生も、都合のいい時に授業動画を視聴することができる。また、課題については学生の負担を考慮し、試験については安心・公正で教師と学生の双方にとって効率的な実施方法を工夫することなども、学習者が欲していることである。

6. おわりに

本研究の目的は、台湾の大学におけるオンライン日本語授業の現状・課題・可能性等を明らかにすることである。筆者の所属大学応用日本語学科の学生に行ったオンライン授業に関するアンケート調査結果と学生が書いたオンライン授業に関する作文の2つのデータを分析した結果、次の4点が明らかになった。

- (1) 学生の多くがネット回線やデバイスのトラブルにより受講に支障が生じた経験を持っていた。一部の学生についてはオンライン授業を受ける環境が整っておらず、今後再びオンライン授業を実施する際は、そうした学生に配慮する必要がある。
- (2) 学生の多くはオンライン授業のメリットよりデメリットを強く実感しており、現状ではオンライン授業が対面授業に取って代わることはできないと考えている。
- (3) コロナ収束後も一部の授業がオンライン化されることを望む学生がおり、遠距離通学や人間関係に苦痛を感じる学生はオンライン授業を好む傾向がある。コロナ収束後、対面とオンラインを併用した授業展開をすることで、異なるニーズに対応した多様な学びの機会を提供できると考えられる。
- (4) 今後オンライン教育が成功・発展するには、通信環境・端末の整備、教師のデジタルリテラシーの向上や授業方法の調整のほかに、学生の自己管理能力の向上が欠かせない。

本研究は調査対象者が限定的であるため、台湾の大学におけるオンライン日本語教育の全体像が反映されたとは言い難い。しかし、

多少なりとも今後のオンライン授業の設計・実践に役立つ示唆を得ることができたと考える。

<付記> 本稿は、「銘傳大學 2022 年国際學術研討會 疫情時代應用日語教育的創新策略」において口頭発表した内容に加筆・修正を行ったものである。

参考文献

【中国語】

盧慧娟・鄭安中・劉綺君 (2021)「新冠疫情對第二外語口語訓練之衝擊與省思」『語文與國際研究』第 25 期、01-28。

【日本語】

今福宏次 (2021)「ハイフレックス型オンライン授業の課題と改善点—受講生に対するインタビュー調査結果—」『銘傳日本語教育』第 24 期、81-110。

河内彩香・村田晶子・長谷川由香・竹山直子・池田幸弘 (2021)「教員と学習者はオンライン授業をどうとらえたか—Zoom と Google Classroom を併用した日本語教育—」『多文化社会と言語教育』Vol.1、30-45。

山畑倫志 (2021)「2020 年度「一般日本語コース」のオンライン授業に関するアンケートについて」『日本語・国際教育研究紀要』第 24 号、104-114。

山本卓司 (2021)「オンライン授業における学習者の反応—アンケート調査の分析から—」2021 年度台湾日本語・日本文学研究国際シンポジウム『ポストコロナの日本語文学研究』論文予稿集、153-160。

付録 1. アンケート調査票

應用日語學系專業科目線上教學問卷調查

本校為因應新冠病毒防疫措施，除了 108 學年度第二學期提供未入境學生彈性遠距課程外，在 109 學年度第二學期期末及 110 學年度第一學期開學時，實施了為期約一個月的線上遠距教學。本調查主要目的，在瞭解應用日語學系專業科目在線上教學實施之際的實況和問題，寄望調查研究結果作為改善教學的參考。本問卷所收集的資料僅限於學術研究使用，沒有個資外洩之問題，請放心填寫並感謝您的熱心協助。

第一部分、基本資料（請在適當的空格「」中打勾「」。）

年級：1 年級 2 年級 3 年級 4 年級 其他：_____

性別：男性 女性

第二部分、針對應用日語學系專業科目線上教學之提問

第二部分共有 13 題，請你回答每一個問題，並在選擇項目「其他」處，具體陳述你自己的經驗和看法。中文或日文作答皆可。

1. 在線上教學時，你主要使用那些通訊裝置設備呢？

手機 平板 電腦（筆記型或桌上型） 其他：_____

2. 在線上教學時，你有遇到過網路延遲斷訊或通訊設備上的問題嗎？

常常遇到 偶爾遇到 很少遇到 沒有遇到

3. 有關第 2 題，你實際遇到過哪些網路遲延斷訊或通訊設備上的問題呢？（可複選）

因為要購買相關設備，增加額外經濟負擔。

音訊、視訊品質不佳，斷斷續續、聽不清楚或看不清楚。

麥克風的音量即使調到最大，但對方仍表示聽不到聲音或聲音很小。

網路連線不穩定，無法上課。

其他（請具體陳述）：_____

4. 在線上教學時，你有安靜、獨立能夠專心上課的的學習空間嗎？

有 沒有

5. 對你而言，線上教學所帶來的好處是什麼？（可複選）

省掉到校上課的交通時間 能夠有效利用時間

比在教室的實體上課更能專心 能在自己家裡或自己喜歡的地方上課

不用面對同學注視的眼光 比較能夠以輕鬆的心情上課

比較敢向老師發問或發言 能提高電腦或相關軟體的知識和運用能力

上課教材比較容易理解

其他（請具體陳述）：_____

6. 對你而言，線上教學所帶來的壞處是什麼？（可複選）
- 上課時容易分心、無法持續專注力 比起實體教學作業變多
- 網路流暢度及通訊品質不佳，導致線上學習受阻 無法見到朋友而感到孤獨
- 有問題時較無法請教同學 較不敢向老師發問或發言
- 感到眼睛酸澀、肩頸僵硬等身體疲勞狀況 上課教材不易理解
- 不喜歡開啟鏡頭露臉
- 其他（請具體陳述）：_____
7. 整體而言，你對應用日語學系專業科目的線上教學滿意嗎？
- 非常滿意 滿意 普通 不滿意 非常不滿意
8. 你對應用日語學系專業科目的線上教學，感到滿意的是那些呢？（可複選）
- 上課內容容易理解 感受到老師的努力和熱情
- 小考與作業老師適當且適量 小考與作業繳交後老師有回饋
- 比起實體課程學習成效高 提升了學習意願
- 其他（請具體陳述）：_____
9. 你對應用日語學系專業科目的線上教學，感到不滿意的是那些呢？（可複選）
- 上課內容不太能夠理解 感受到老師並非全力投入
- 小考與作業等並非適當、適量 小考結束或作業繳交後，得不到老師回饋
- 比起實體課程學習成效差。 學習意願降低
- 其他（請具體陳述）：_____
10. 針對應用日語學系的專業科目，你覺得較適合線上教學的科目是那些？（可複選）
- 會話 習作 讀本 聽解 翻譯
- 文學 日本事情・文化（經濟・歷史・地理等）
- 其他（科目名稱）：_____
11. 針對應用日語學系的專業科目，你覺得較不適合線上教學，而適合實體教學的科目是那些？（可複選）
- 會話 習作 讀本 聽解 翻譯
- 文學 日本事情・文化（經濟・歷史・地理等）
- 其他（科目名稱）：_____
12. 你認為線上教學需要改善的問題為何？（可複選）
- 網路速度 視訊平台的功能 老師的線上教學法 師生互動
- 自己的通訊設備
- 其他（請具體陳述）：_____
13. 防疫警戒升級時，你希望實施哪一種授課方式呢？
- 維持實體教學模式 全面採線上教學模式 實體與線上並用的教學模式
- 其他（請具體陳述）：_____

～謝謝妳認真填答問卷～